

防犯パトロール隊じゃがいもの会（山口県）

活動地域の概要

山口市のじゃがいもの会の代表をしております橋本と申します。会員数 22 名、活動地区は山口市宮野地区等です。主な活動内容は、登下校時の子ども見守り活動、青パトによる防犯パトロール、各施設の訪問や各種行事への参加です。

山口市は豊富な緑や清澄な水を有するなど自然に満ち、また、大内氏時代や明治維新関連の歴史や文化資源が今に残されており、湯田温泉などを含めた観光地としての魅力も備えた都市となっています。人口は 19 万 6,000 人、世帯数は 8 万 1,000 世帯です。その中で 1 中学校区、4 小学校区が活動の舞台になっています。



団体結成の概要

平成 8 年 11 月から、山口市社会福祉協議会の各種行事等へ参加・協力をしておりましたが、毎年隊員が少しずつ増加し、平成 21 年 6 月、隊員の輪が大きく広がり、「防犯パトロール隊」を正式に結成いたしました。当隊は、「子ども達の笑顔を」をモットーに安全で安心なまちづくりを目指して活動しています。このため山口警察署とは常にいろいろな点で情報提供を受けたり、お願いごとをしたりと連携を密にしています。



活動の特色

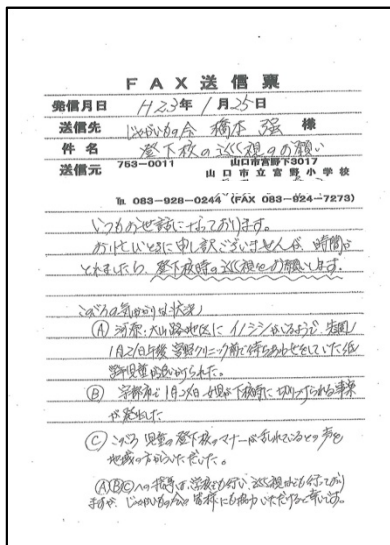
当隊の特徴は、隊員各自が興味ある分野で、自分の好きな時間帯に自由に取り組んでいるところです。こうした活動方法は、隊員にとっても無理がなく、住民の防犯や住みよい環境作りに対する関心度を高める上でも効果的であると思います。パトロール中に不審物を発見したり、異常な状況に遭遇した場合は、決して無理をせず、直ちに警察署あるいは 110 番通報するように徹底しています。

活動内容と成果

登下校時の児童・生徒の見守り活動です。

パトロール区域内には、小学校が 4 校、中学校が 1 校ありますが、下校時間等に変更がある場合は、学校からファックスが送られてくるため、下校時間に合わせて、確実かつ効果的な見守り活動を行っています。これが送られてくるファックスです。このファックスの内容は、通学時間にイノシシが出たというこ

とで、すぐに隊員と一緒に出動しました。



JR 山口線の湯田温泉駅や矢原駅周辺の駐輪場の整備及び放置自転車の撤去活動もしています。

当隊の活動を活性化させるため、大学生ボランティアとも連携しています。山口県立

大学で結成された学生による防犯ボランティア団体と、警察署を通じて合同で活動に取り組んでいます。合同活動を通じて、大学生の皆さんの活力に接することで隊員も刺激を受け、士気の高揚が図ら

れ活動の活性化につながると感じています。また、大学生たちと一緒に災害ボランティア活動として、岩手県陸前高田市の米崎小学校の登下校の見守りも行っています。学生たちは米崎小学校の図書館の整理等を実施し、子どもたちとの連携も図っています。これは米崎小学校におけるパトロールの状況です。山口県立大学の災害フォーラムや学生たちの活動報告にも参加しています。



他の団体との合同活動としては、他にも、月に2回、10日と20日の日に、大内地区の防犯ボランティア団体と合同パトロールに取り組んでいます。合同パトロールは、隊員の士気高揚にもつながっています。青パトが20台集まる場合もあります。



また、防犯に対する意識の向上や、住みよいまちづくりを目指して挨拶と声かけを積極的に行っています。

これは、防犯講習の様子です。山口市の高齢者から振り込め詐欺等の被害が出ないように、訪問介護の研修会時に併せて防犯講習会を行っています。ヘルパーさんたちが高齢者宅を訪れたときに、機会教育のような形で防犯指導ができるようにするため



です。山口市には訪問介護事業所が53ありますが、代表もしくは代理が必ず出席して、研修会も兼ねて講習をします。福祉車両には、こういったチラシをぶら下げています。振り込め詐欺のチラシです。山口市社協が主催する災害ボランティア活動報告にも参加しています。

東日本大震災では災害ボランティアとして陸前高田市の米崎小学校の見守り活動を行いました。このときの活動資金は日本財団から災害緊急支援金として拠出された100万円を活用しました。この建物が米崎小学校です。右が現在、仮設住宅になっています。毎週金曜日に校長先生に活動報告ということで、雑談も兼ねて学校に行って報告をしております。



青パトについては、現在、日本財団から2台を助成してもらっています。4月、5月以降はずっと陸前高田市に1台を常駐させておりました。

これは大学生による見守り活動です。青色防犯パトロールに合わせて10月以降は、カラオケバスを導入して、被災者の心のケアにも心掛けています。

今後の取組

今後の取組としては、幅広い地域から一層の隊員の増強を図り、住民の防犯に対する意識(関心度)を高め、安全で安心なまちづくりを推進することとしております。また、今年の夏休みは学生たちと一緒にまた東北に行くということで、ただいま計画をしております。

災害ボランティアの活動に関し、テレビ取材がありましたので紹介したいと思います。

(ビデオ上映)

(ビデオ上映終了)

質疑応答

●質問 山口県立大学のボランティア団体と一緒に活動なさっているというお話がありましたが、どんなきっかけで合同活動を行ったのでしょうか。

○回答 きっかけは、私が山口県立大学社会福祉学部の先生を知っていたことです。

●質問 一緒に活動して効果的だったとか、普段のじゃがいも会自身の活動にも何か効果がありましたか。

○回答 学生たちの物事への前向きな姿勢で行動していることに感銘を受けました。

●質問 その活発な大学生の活動を背景にして、じゃがいも会自身の活動が変わったようなことがありますか。

○回答 学生たちのパワーをもらって、隊員の士気も高揚し、より活動が活発になったように思います。

●質問 今後、どういった活動を共にしていかれるような予定ですか。

○回答 被災地においては、引き続き来年まで活動していきます。

●司会 地元においてはどのような活動を共にやっておられるのですか。

○回答 定期的に隣の大内地区と合同パトロールを実施するほか、学生たちとも時間があるときには一緒に活動しております。今後も継続してやっていきます。